

22PO-am370

活性型ビタミン D₃がスキルス胃癌の腹膜転移能に与える影響

○森田 あや美¹, 須藤 夕稀¹, 原 敏文¹, 武井 佳史¹ (愛知学院大薬)

【目的】活性型ビタミン D₃ (VD₃)は、癌細胞の増殖抑制や細胞死を誘導することが知られている。VD₃ 投与による肺癌の転移抑制が報告されているが、VD₃ 投与による抗転移に関する分子機構は未解明なままである。我々が研究対象とするスキルス胃癌は悪性度が高く、また早期発見が難しいため、診断時には約半数の患者が腹膜転移を起こしている。この腹膜転移が、患者予後を悪くしているといえる。本研究では VD₃ がスキルス胃癌の腹膜転移能に与える影響を調べ、スキルス胃癌に対する VD₃ の治療応用性について検討することを目的とした。

【方法】スキルス胃癌患者より独自に樹立した HSC-44PE (親株)と、この親株をヌードマウス胃に同所性移植を繰り返して樹立した 44As3 (腹膜転移株) を用いて、以下の実験を行った。1) VD₃ に対する感受性の有無を検討するため、Western Blot (WB) 法および qPCR 法により VD₃ 受容体 (VD₃R) 発現レベルを調べた。2) VD₃ を濃度依存的に添加し、細胞増殖における VD₃ の影響を調べた。3) 細胞の運動能における VD₃ の影響をスクラッチアッセイ法で評価した。

【結果・考察】親株および腹膜転移株で VD₃R の発現を認めた(WB 法および qPCR 法)。加えて、VD₃ 刺激によって、VD₃R タンパク質および遺伝子発現が誘導されることを明らかにした。年会では、細胞増殖能や遊走能に与える VD₃ の影響について、報告予定である。